

『認証評価におけるアウトカムの考え方』(発表要旨)

大学基準協会・専務理事 鈴木典比古

1. 学習成果(learning outcomes)とは学生が勉学によって修得する成果の総体を表わすものであるが、その勉学の場合は教室での授業と共に教室外での学習の場や状況も含むものである。原則として、学習成果は学生自身が主体的・主観的に認識できるものでなければならない。学習成果の内容は知識やスキルや行動や経験等に及ぶ広範なものである。学習成果とは学生がそれを得ることによって自己の学習努力に満足し、それ以降の学習への更なる動機付けに連なるものである。
2. 大学基準協会の新大学評価システムでは学習成果を測定・検証するための評価指標の開発とその適用、改善へのフィードバックがなされているか否か、の確認を行う。学習成果を測定することが目的ではなく、測定結果を教育の質保証・質の向上にいかに関活用しているかを評価する。「大学基準 4.」では(成果)の内容の解説として「大学は学習成果を的確に評価するために、その学習方法や評価指標の開発に努めなければならない。大学は、いずれの過程においても、明示された学位授与方針に基づき、一定の成果を修めると認定された学生に対して、学位を授与する必要がある」と説明している。
3. 各大学は、授与する学位に相応しい内容と水準の学習成果を学生自身が達成しているか否かを確認するために、P(Plan-方針決定)、D(Do-実施)、C(Check-点検・評価)、A(Action-改善)サイクルがシステムとして内蔵化され機能しているか否かを自己点検・評価を行う必要がある。大学基準協会は、このような各大学のPDCAサイクルが機能しているか否かを評価する。
4. ICUの事例-National Survey of Student Engagement(NSSE)の学生アンケート等-
  - (1) ICU Student Engagement Survey(NSSEにICU独自の質問を加えたもの)-3年生を対象
  - (2) ICU Student Exit Survey-4年生卒業時調査
  - (3) ICUの授業におけるWriting調査-教員対象
  - (4) ICUのリベラルアーツ学習に関する調査

注) ICU Student Engagement Surveyの質問票はウェブ上で参照可能。